平成２５年度

（一財）救急振興財団調査研究助成事業

# 二次救急病院における救急救命士の評価についての横断的調査研究

代表研究者

久米梢子[1)]

共同研究者

久保佑美子[1)]　神山麻由子[1)]　岡本博照[2)]　和田貴子[1)]

１）杏林大学保健学部　救急救命学研究室

２）杏林大学医学部　衛生学公衆衛生学教室

## 目的

近年、病院及び救急部門において、医師・看護師の人材不足が指摘されている。こうした背景の中、救急救命士を雇用している病院が増加している。救急救命士は、人材不足の改善及び医療の質の向上や維持にどう寄与できるのか、その可能性を検討する必要がある。

現在、病院における救急救命士の需要についての調査研究を散見するが、彼らが病院において医療従事者からどの様に評価されているかについては不明である。そこで、救急救命士が病院内でどのような評価を受けているのか調査を実施した。本調査の目的は、救急救命士が病院で働くにあたっての問題点や改善点、及び有用性を検討することである。

## 方法

平成２５年６月下旬～８月下旬までの期間、複数施設の二次救急病院に勤務する職員を対象に、原則、悉皆調査を行った。調査対象医療機関は関東圏の二次救急病院１１施設（救急救命士を雇用している病院７施設、雇用していない病院４施設）である。

全体の配布部数は２３６５部で、そのうち７１６部回収し、全体の回収率は３０．３％であった。救急救命士を雇用している病院７施設では１７３５部配布し、５０４部回収することが出来た（回収率は２９．０％）。救急救命士を雇用していない病院４施設では６３０部配布し、２０５部回収することが出来た（回収率は３２．５％）。各病院の配布部数、回収部数、回収率については表にまとめた（表１・表２）。

救急救命士を雇用している病院に対しては、「あなたは救急救命士がいて良かった、または助かったと思ったことはあるか」「あなたの病院の救急救命士に対して、どう評価しているか」「あなたの病院に救急救命士は必要と思うか」という質問についての回答の結果を解析し、さらに救急救命士に対しての満足点や不満点について調査した。

救急救命士を雇用していない病院に対しては、「あなたはこれまでに救急救命士がいたら良かった、または助かっていたと思ったことはあるか」、「もしあなたの病院に救急救命士がいたら、どう評価するか」、「あなたの病院に救急救命士は必要と思うか」という質問に対しての解析および救急救命士についての印象の調査を行った。

解析には同意書がないもの、各設問で無回答のものを除いた。

## 結果

救急救命士を雇用している病院における「あなたは救急救命士がいて良かった、または助かったと思ったことはあるか」および「あなたの病院の救急救命士に対して、どう評価しているか」という質問の有効回答者は４７７人、同様に「あなたの病院に救急救命士は必要と思うか」という質問の有効回答者は４８１人であった。

また、救急救命士を雇用していない病院における全質問の有効回答者は全体で１９４人

であった。これより、類似、あるいは同じ質問について救急救命士を雇用している病院、雇用していない病院とでの結果を比較し述べていく。

救急救命士を雇用している病院に対しての質問である、「あなたは救急救命士がいて良かった、または助かったと思ったことはあるか」に対し、４７７人中３１５人（６６．０％）が、救急救命士がいて助かったことがあると回答し、４７７人中１３９人（２９．１％）がどちらとも言えないと回答した。さらに、４７７人中１７人（３．６％）が、救急救命士がいても助かったことはないと回答した（図１）。職種別の結果では、共に働く機会が多い医師・看護師から、助かったという評価が多く、さらに事務職員からの評価もとても高いものであった（図２）。$\chi^2$検定の結果、回答について職種間での有意差を認めた（図３）。助かっている理由としては、「救急外来も急変時も看護師・医師だけではマンパワー不足で救急救命士がいることでトリアージから心臓マッサージ等の必要な人手となっている。」、「救急外来での看護師の業務が減ったので余裕が生まれ業務の円滑化につながっているから」などであり、助かっていないという理由は「救急救命士の役割が看護補助のような働きの要素が強く、資格と言うよりは人数的な助かりに感じる」、「救急救命士独自の活動がなされていない」、「看護師業務の手伝いはしてくれているが、救急救命士の有資格者で助かったと思うことはまだない。医師か看護師で対応できる」などであった（表３）。

救急救命士を雇用していない病院に対し、「あなたはこれまでに救急救命士がいたら良かった、または助かっていたと思ったことはあるか」という質問をしたところ、１９４人中３８人（１９．６％）が、救急救命士がいたら良かった、助かったと思うと回答し、１９４人中９９人（５１．０％）がどちらとも思わないと回答した。さらに、１９４人中５０人（２５．８％）が、そう思ったことはないと回答した。（図４）。職種別に見ても、救急救命士が病院に勤務するということに対して、評価できないまたは否定的な回答が多かった（図５）。現状で救急救命士が院内に存在しておらず、現在いる職種で対応できているため、救急救命士が病院内で働いているという具体的なイメージを持つことが困難であったからだと考えられる。$\chi^2$検定の結果、この質問への回答について職種間での有意差を認めた（図６）。救急救命士がいたら良かったという回答の理由は、「救命処置に適切に対応できると思う」、「緊急や急変時などすぐに対応してくれそうだから」、「救急車でのイメージしかないが、いてくれると安心感があると思う」などであった。そう思ったことがないという回答の理由は、「業務内容が明確でないため」、「医師、看護師が常にいるので」、「病院内だと活躍の場がない」、「病院勤務の救急救命士がいること自体知らなかった」などであった（表４）。

続いて救急救命士を雇用している病院への質問「あなたの病院の救急救命士に対して、どう評価しているか」に対しては４７７人中３４４人（７２．１％）が救急救命士は病院内において役立っていると回答し、４７７人中８３人（１７．４％）がどちらとも言えないと回答した（図７）。さらに、４７７人中５人（１．０％）が役立っていないと回答した。職種別の結果では、やはり共に働く機会の多い医師・看護師からの、役立っているという

評価が多くみられた。また、検査誘導や検体の運搬などの業務を救急救命士が行っている関係か、臨床検査技師などの検査科の医療従事者からの評価も高かった（図８）。$\chi^2$検定の結果、この質問に対する回答について職種間の有意差は認めなかった（図９）。この結果から、救急救命士を雇用している病院においては、救急救命士は業務を補佐し、さらに他職種の医療従事者の役に立っているということが示唆される。役立っている理由としては、「連携をとることで患者に合った医療を提供できるため、いてほしい存在」、「臨床的、事務的に潤滑油の役割をしている」、「医師・看護師が自分の仕事に専念でき、治療の効率も高まると思う」などで、役立っていないという理由は、「救急救命士が活躍できる状況がほとんど無いから」、「現時点での法律で病院勤務となると、救急救命士としての役割が果たされているのか評価しにくい」、「病院の体制が救急救命士の活動の場に合っていないため、病院の体制に改善が必要で、本来の活動に付いて評価できない」などであった（表５）。

救急救命士を雇用していない病院への質問「もしあなたの病院に救急救命士がいたら、どう評価するか」に対し、１９４人中９８人（５０．５％）が、救急救命士がいたら役立つと思うと回答し、１９４人中５５人（２８．４％）がどちらとも言えないと回答した。また、１９４人中１４人（７．２％）が役立たないと思うと回答した（図１０）。職種別の結果では、多くの職種から役立つと思うという評価をされているということがわかった（図１１）。これは、急変時対応や救急救命士の持つ知識への期待が高いためだと考えられる。$\chi^2$検定の結果、回答について職種間での有意差を認めなかった。（図１２）。役立つと思うという回答の理由としては、「看護師や医師と連携して迅速に処置ができると思う」、「AED 講習や心肺蘇生の講習を院内に広めたい」、「病棟での急変時にかけつけてもらって処置に入ってもらえれば他の看護業務に看護師が回れると思う」などで、役立たないと思う理由では、「病院内では救急対応できる看護師、さらに医師が常にいるので急変の対応にも困ったことがない」、「看護師と役割が重なる」、「病院勤務より、救急車に乗務していた方が役立つと思う」などの意見が見られた。（表６）

救急救命士を雇用している病院と共通の質問である「あなたの病院に救急救命士は必要と思うか」に対しては、救急救命士を雇用している病院においては、４８１人中３４７人（７２．１％）が救急救命士は病院に必要であると回答し、４８１人中４３人（１７．４％）が必要ではないと回答した（図１３）。職種別の結果からは、前述の結果と同様に医師・看護師からの評価は高く、さらにこの質問では多くの臨床工学技士やリハビリ系コメディカルからも必要だと考えられていることが分かった。これらの職種の評価の理由を見ると、コメディカルの目から見て、看護師や他職種の医療従事者の業務負担を救急救命士がいることで減らすことができるだろうと期待されていることが分かった（図１４）。$\chi^2$検定の結果、この質問に対する回答について職種間の有意差は認めなかった（図１５）。必要だという理由は、「特に夜間など限られたスタッフ数で急変や救急対応をする際に協力して仕事のできる職種がいると安心」、「二次救急でも重症患者や急変する患者も多いのでトリアージや患者の対応も看護師以外で知識のある救急救命士が役に立っていると思います」、

「患者の状態が安定するまでの間医師・看護師がより自らの専門性を発揮することができるようにするため」などで、必要でないという理由では、「救急救命士を必要とする業務が少なく看護師がすべて行える業務であるため」、「いてくれれば助かることもあるが、必ずいてほしいかと言われればそうでない」、「存在位置が明確ではないため」などであった（表７）。

救急救命士を雇用していない病院においては、１９４人中６４人（３３．０％）が救急救命士は病院に必要であると回答し、１９４人中９９人（５１．０％）が必要ではないと回答した（図１６）。職種別の結果では、必要ではないという回答が看護師・放射線技師などのコメディカルから多かった（図１７）。救急救命士がもし雇用された場合に関わることが多いであろう職種からの評価が否定的であるのは、現在救急救命士がおらずとも業務が滞りなく遂行出来ていることや、業務が重なる点があるということが原因であると考えられる。$\chi^2$検定の結果、この質問に対する回答について職種間の有意差は認めなかった（図１８）。必要だという理由は、「看護師業務と重なることが多いが、救急患者の対応や看護補助で役立つと考えられる」、「看護師の業務負担軽減」、「救急救命士がいたほうがよりよい医療を目指せると思うから」などで、必要でないという理由では、「いてくれるといいが、必ずしも必要とは思わない」、「急変する患者が少ない」、「病院内での救急救命士にしかできないという特化した行為がないように思える」などであった（表８）。

救急救命士を雇用している病院での、救急救命士に対しての満足点は「病院の方針に沿って自分たちのできる限りの対応をしてくれている」、「救急救命士のおかげで救急車の受入れがスムーズでスタッフからも信頼されている」、「医師・看護師が集中できるように、そのほかの救急外来業務を行っていること」といった点であった（表９）。不満点は、「役割またはどこまでの業務ができるかの位置付けがされていないため、扱い方に困る」、「病院として何を行ってもらえるのか何ができないのかはっきりしていなくて使いにくかった」、「行ったことに対して記録していないため、責任の所在がはっきりしない」などであった（表１０）。

救急救命士を雇用していない病院での、救急救命士に対する印象としては、「救急車両に乗って初めて資格を活かせる職業という印象」、「医師・看護師に集中している医療業務を多業種連携により緩和できる」、「医療行為に対する制限がある印象」などであった。（表１１）。

**考察**

救急救命士を雇用している病院での有効回答者の約６割強が救急救命士は必要、勤務していて助かったと評価し、７割が役立っている・必要であると評価した。このように、救急救命士を雇用している病院からの救急救命士に対しての評価は、非常に肯定的なものとなった。ただし、医師・看護師に加え、コメディカルからの評価も高いのは、共に業務す

る機会が多いためだと考えられる。また、事務職員からの評価も一貫して高いのは、救急救命士が医師や看護師を補佐し、業務を円滑にしていることに加え医療従事者と事務間の橋渡しをしているためだと推測される。

救急救命士を雇用していない病院においては、有効回答者の約５割が、救急救命士がいたら役立つとは思うが、病院には必要ではないと評価した。救急救命士を雇用している病院と比較して否定的な結果となったが、これは医師・看護師や他の医療従事者で現在の業務が充足しているため救急救命士がいなくても支障がないことや、救急救命士がどのような業務を病院内で行えるのかがわからないためだと考えられる。

今回の調査において、救急救命士を病院内で活用するにあたっての問題点が浮上した。それは①病院内での立場がまだ曖昧であること、②病院内での業務内容や責任の所在が不明確であること、③現状では救急救命士だから必要とされているのではなく単純なマンパワーとしてみなされている傾向が多いことなどである。こうした問題が生じるのは、病院内では救急救命士が存在しなくとも、既存の医療従事者で業務が完結出来るからである（図１９）。この意見は、特に救急救命士を雇用していない病院において多くみられた。

救急救命士の資格取得者は現在３万９千人を超え、そのうち消防に所属している者は２万７千人存在している（平成２３年度救急救命士養成所専任教員講習会　資料１より）。現状の法律では、救急救命士の資格は消防以外において活かすことは難しく、消防以外に所属している１万２千人が資格を活用できているとは考えにくい。救急救命士は本来、病院前において活かされる資格であるため、それ以外の場所で活用するためのプロトコールは依然作成されていない。しかし、救急救命士を雇用する病院も近年増加しており、病院以外にも、民間救急搬送事業者、医療関係の一般企業などでも雇用されている。こうした背景から、救急救命士のニーズは高まっていると推測される。今回の調査において救急救命士は、医師や看護師を始めとする医療従事者の業務負担を軽減し、救急外来業務においてその専門性を発揮できること、さらにマンパワーの充足に貢献するなど、病院内において医療の質の向上に寄与することが出来ることが示唆された。このような背景から、今後救急車での業務のみならず、病院前の様々な業種で活用が期待されると考える。そのためには、病院前以外での救急救命士の存在や業務内容を明確にし、整備していくことが必要である。

**謝辞**

本調査は、（一財）救急振興財団の「救急に関する調査研究事業助成」を受けて行ったものである。（一財）救急振興財団及び本調査にご協力いただいた病院職員の皆様に厚く御礼申し上げる。

**参考資料**

・平成２３年度救急救命士養成所専任教員講習会　資料１
http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000002sq2d-att/2r9852000002sqaf.pdf
・日臨救医誌（ＪＪＳＥＭ）２０１２：１５：２６１
「病院内救急救命士の職域拡大の必要性に関する検討」会議録
・平成２２年３月１７日
「救急救命士の業務のあり方等に関する検討会」　参考資料４
http://www.mhlw.go.jp/shingi/2010/03/dl/s0317-4f.pdf
・「病院内救急救命士の職域拡大の必要性に関する検討」
第１５回日本臨床救急医学会総会　学術集会　２０１２
近畿大学医学部　田口博一ら
・「病院内救急救命士に関する調査２　病院内救急救命士へのアンケート調査」
第１６回日本臨床救急医学会総会　学術集会　２０１３
近畿大学医学部　今村武尊ら

表１　救急救命士を雇用している病院７施設の配布・回収状況

| 病院 | 回収/配布 | 回収率 |
|---|---|---|
| A病院 | 68/270 | 25.2% |
| B病院 | 21/180 | 11.7% |
| C病院 | 137/330 | 41.5% |
| D病院 | 106/450 | 23.6% |
| E病院 | 144/300 | 48% |
| F病院 | 16/200 | 12.5% |
| G病院 | 5/5 | 100% |

表２　救急救命士を雇用していない病院４施設の配布・回収状況

| 病院 | 回収/配布 | 回収率 |
|---|---|---|
| H病院 | 45/100 | 45% |
| I病院 | 68/420 | 16.2% |
| J病院 | 77/100 | 77% |
| K病院 | 10/10 | 100% |

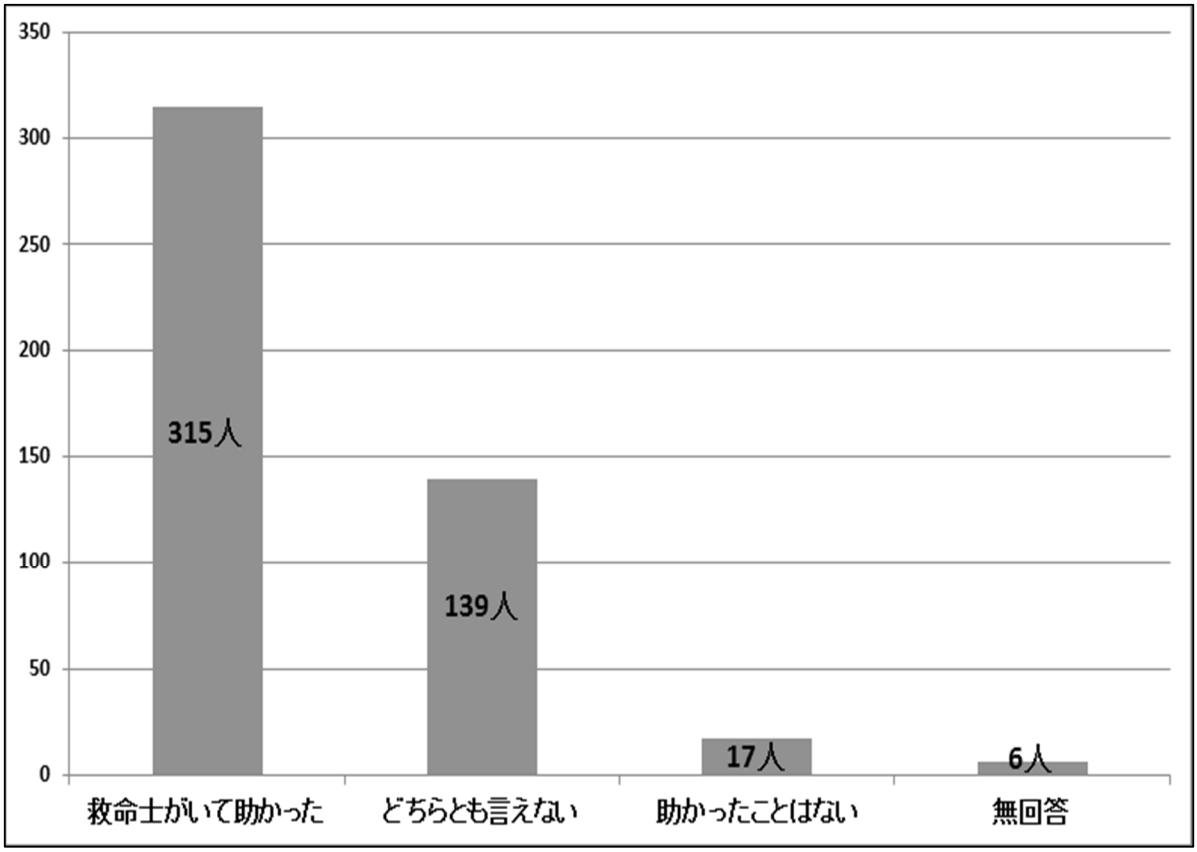


図１

質問：「救急救命士がいて良かった、または助かったと思ったことがあるか」

救急救命士を雇用している病院での回答者数

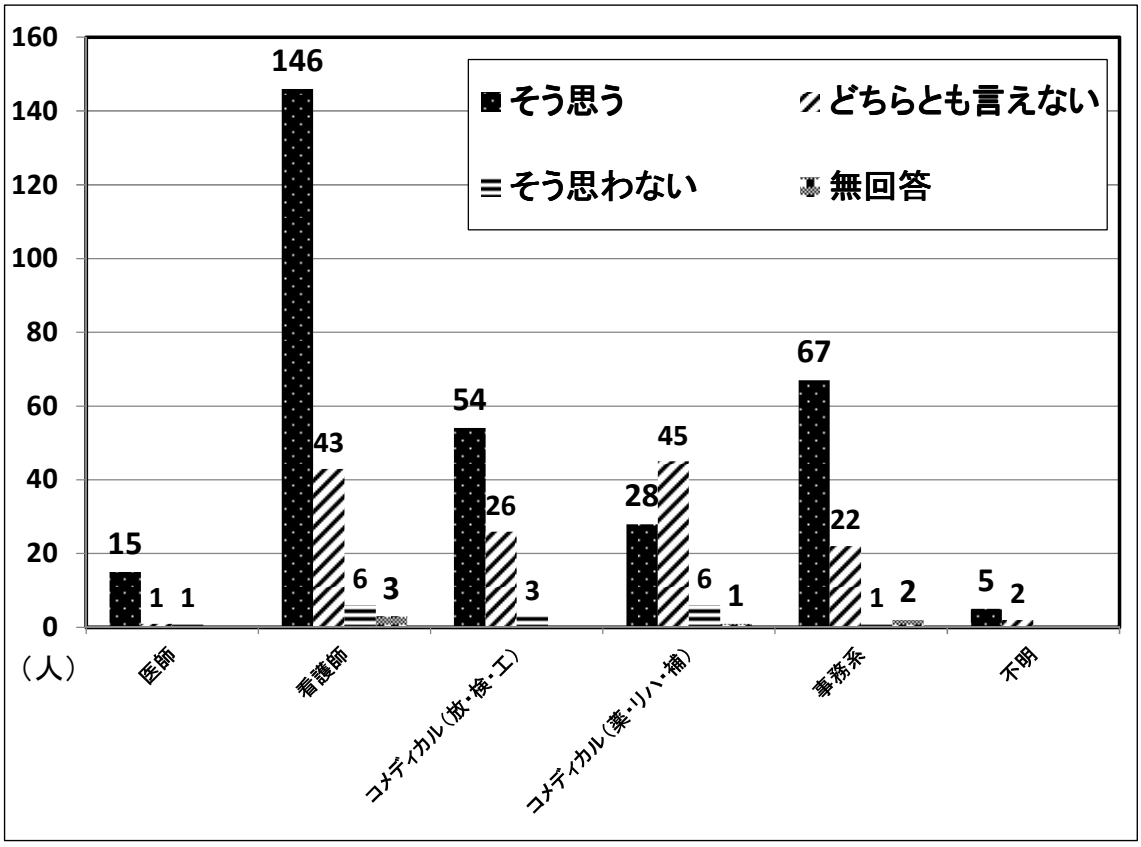


図２

質問：「救急救命士がいて良かった、または助かったと思ったことがあるか」

救急救命士を雇用している病院での職種別回答者数

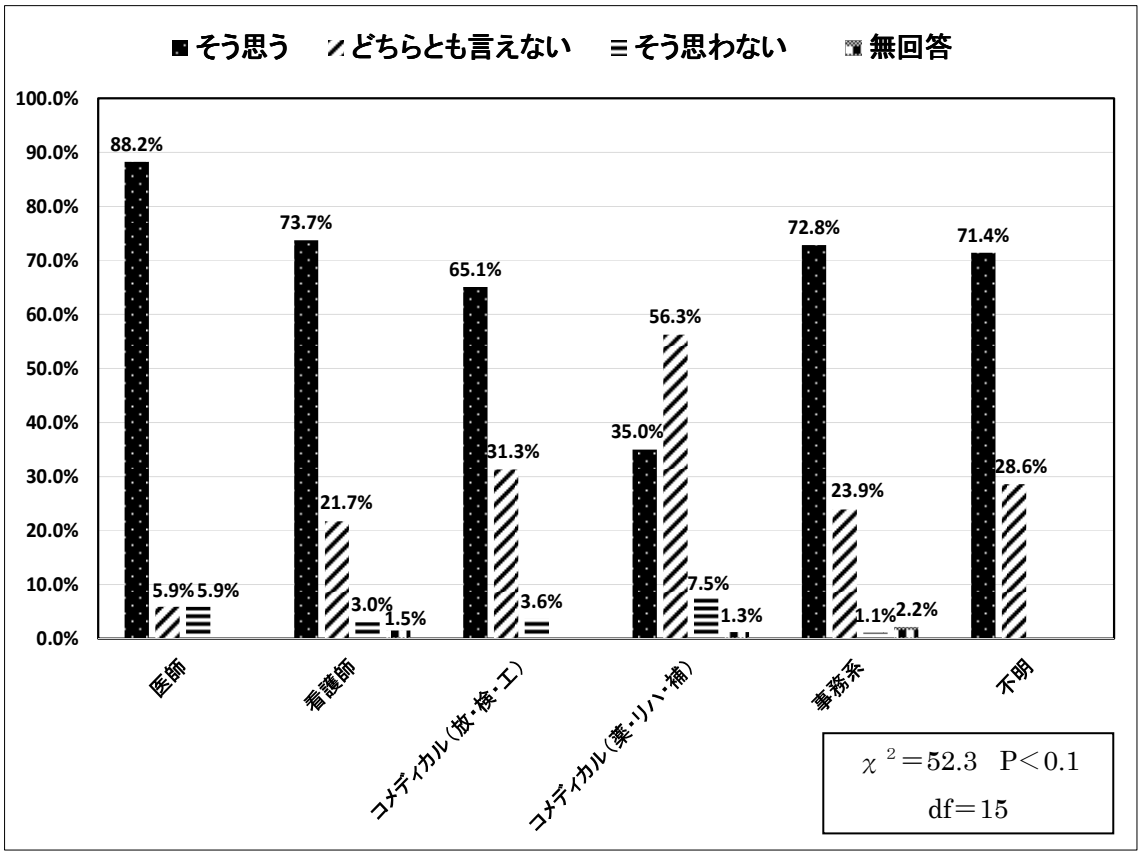


図３

質問：「救急救命士がいて良かった、または助かったと思ったことがあるか」

救急救命士を雇用している病院での職種別回答割合

表３　質問：「救急救命士がいて良かった、または助かったと思ったことがあるか」
救急救命士を雇用している病院での理由

| そう思う理由 |
| --- |
| ・ドクターカー（救急車）の運転及び同乗等で経験が活かされている。 |
| ・看護師がいない時にフォローに入ってくれる。 |
| ・医療知識があり補助作業がより効率的となる。 |
| ・救急車での搬送や看護師の補助など。 |
| ・救急外来も急変時も看護師、医師だけではマンパワー不足で救急救命士がいることでトリアージから心臓マッサージ等の必要な人手となっている。ＡＣＬＳ対応時は本当に助かる。 |
| ・ＣＰＡ時の心臓マッサージ、バイタルサインチェック、患者の誘導、アナムネ聴取。 |
| ・二次なので生命に関わる場面にはあまり立ち入ることは少ないですが、医療のことをよく理解しているので放射線科にきても安心して任せられます。 |
| ・ＥＲ受け入れや相談がスムーズになった。 |
| ・看護師、救急救命士の役割が明確化され看護に専念できる環境にある。 |
| ・院内の救急救命講習実施や、救急外来での応対（トリアージなど）など、以前は看護師、医師では手が足りず混乱しがちであったＥＲ業務をスムーズにしてくれた。 |
| ・急変時の対応時非常に助かっている。 |
| ・救急救命士がいることで自分たちの仕事がちゃんとできる。 |
| ・看護師不足のマンパワーを補っている。 |
| ・看護師と医師の補助的役割をしている。 |
| ・救急外来での看護師の業務が減ったので余裕が生まれ業務の円滑化につながっているから。 |
| ・看護師と看護補助だけでなく、救急救命士がいたほうが緊急時や看護師不足の現状を考えると、いたほうがいいのではと考えました。 |
| そう思わない理由 |
| ・救急救命士の役割が看護補助のような働きの要素が強く、資格というよりは人数的な助かりに感じる。 |
| ・救急救命士独自の活動がなされていない。現在は看護補助的。 |
| ・業務内容をきちんと知らないため。 |
| ・看護師業務の手伝いはしてくれていますが、救急救命士の有資格者で助かったと思うことはまだない。医師か看護師で対応できる。 |
| ・職務範囲の違いで病棟では特に救急救命士が救命活動するケースが少ない。 |
| ・救急病院では救急救命士ができることに限りがあるため。 |

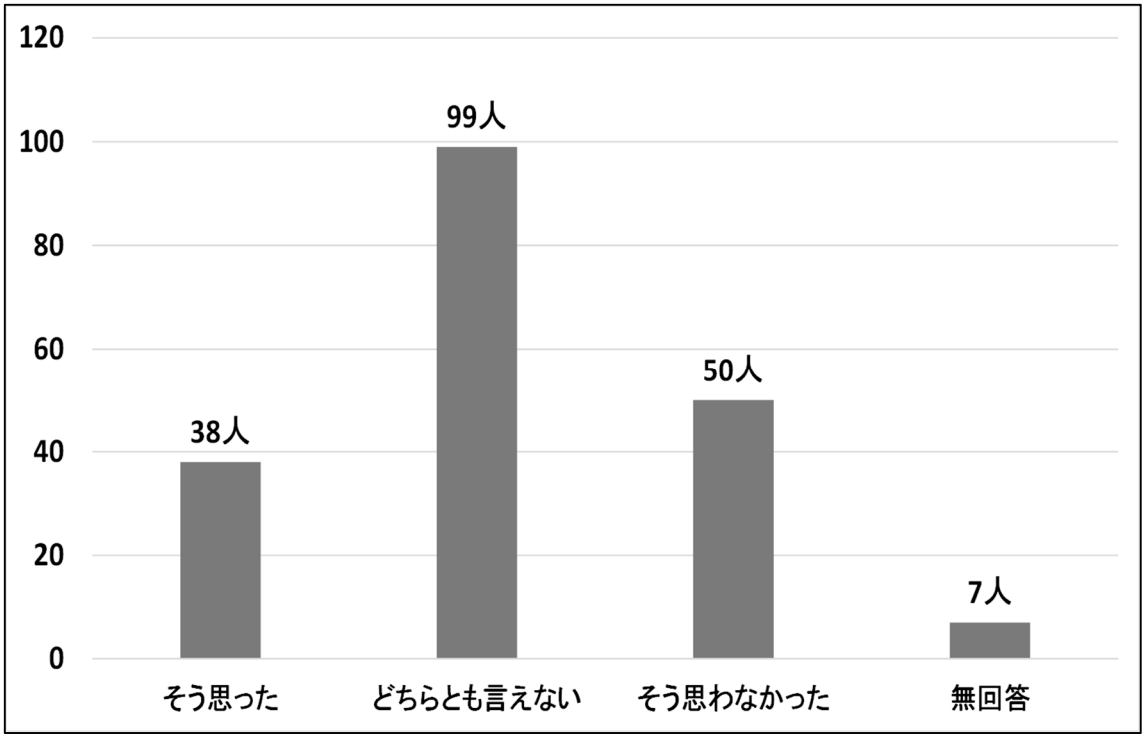


図４
質問：「救急救命士がいたら良かった、または助かっていたと思ったことはあるか」
救急救命士を雇用していない病院での職種別回答割合

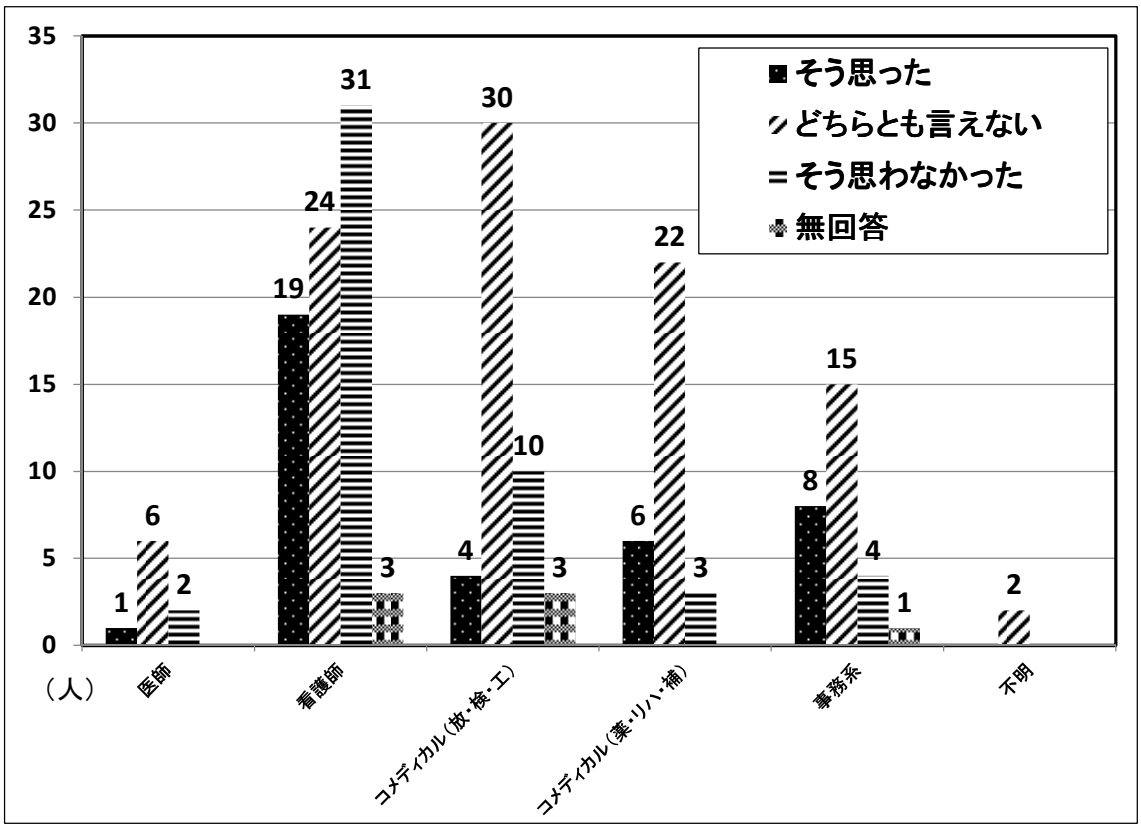


図５

質問：「救急救命士がいたら良かった、または助かっていたと思ったことはあるか」

救急救命士を雇用していない病院での職種別回答者数

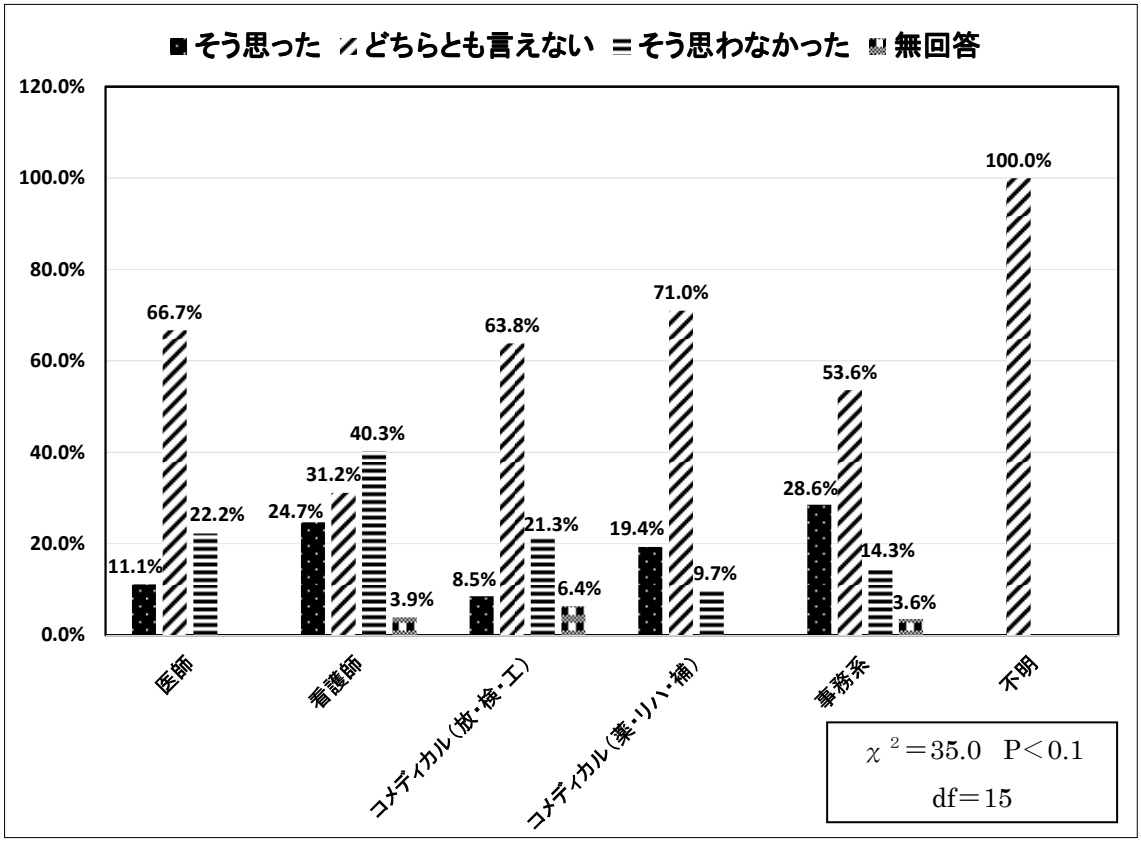


図６

質問：「救急救命士がいたら良かった、または助かっていたと思ったことはあるか」

救急救命士を雇用していない病院での職種別回答割合

表４

質問：「救急救命士がいたら良かった、または助かっていたと思ったことはあるか」

救急救命士を雇用していない病院での理由

| 救急救命士がいたら良かったと思った理由 |
| --- |
| ・救命処置に適切に対応できると思う。 |
| ・緊急時や急変時などすぐに対応してくれそうだから。 |
| ・転院搬送の時にいたら助かった。 |
| ・人員が不足していると思うので、いるにこしたことはない。 |
| ・救急車でのイメージしかないので、あまり具体的には浮かばないが、いてくれると安心感があると思う。 |
| そう思ったことがない理由 |
| ・医師、看護師が常にいるので。 |
| ・その必要を感じたことがない。医師、看護師で対応できている。 |
| ・医師、看護師が常に存在しているので救急救命士の必要性を感じない。 |
| ・業務内容が不明確なため。 |
| ・当院での救急救命士の必要性に疑問。 |
| ・看護師と共同する点など役割分担が明確にイメージできない。 |
| ・救急救命士は救急隊にしかいないと思っていたので一般の病院での勤務はイメージしたことがなかった。 |
| ・病院勤務の救急救命士がいること自体知らなかった。 |
| ・病院内だと活躍の場がない。 |
| ・院内では必要性を感じない。 |

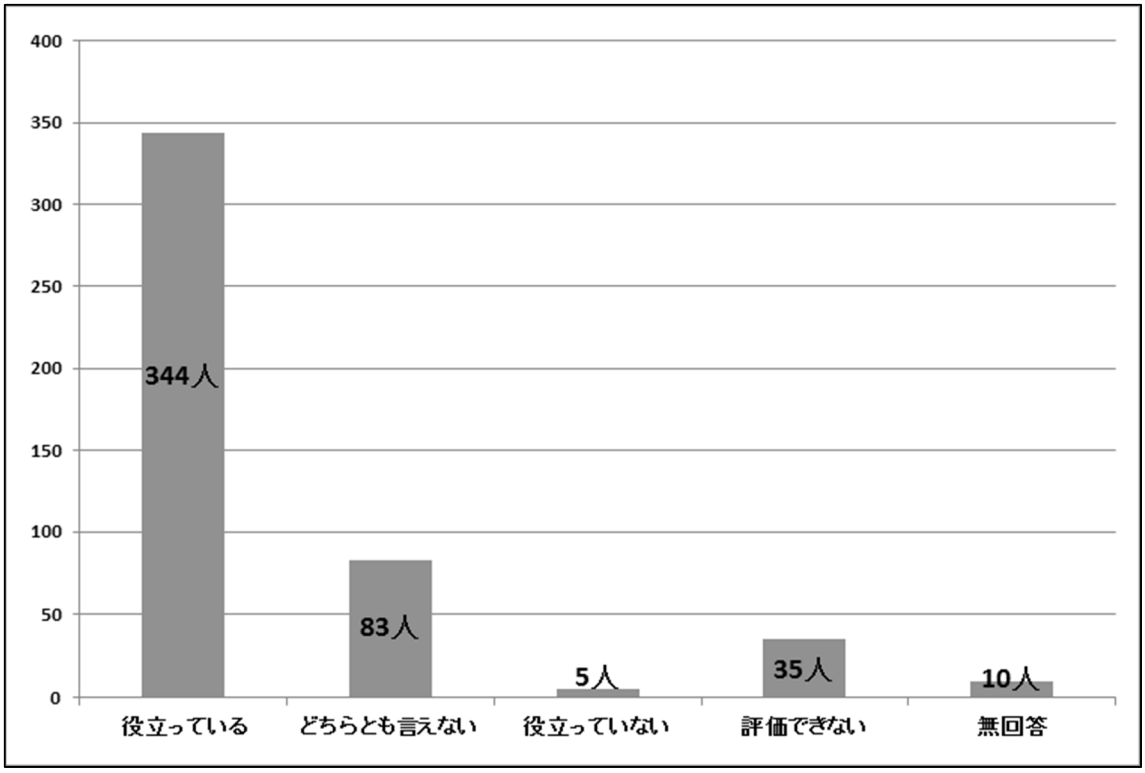


図 7

質問：「あなたの病院の救急救命士に対して、どう評価しているか」

救急救命士を雇用している病院での回答者数

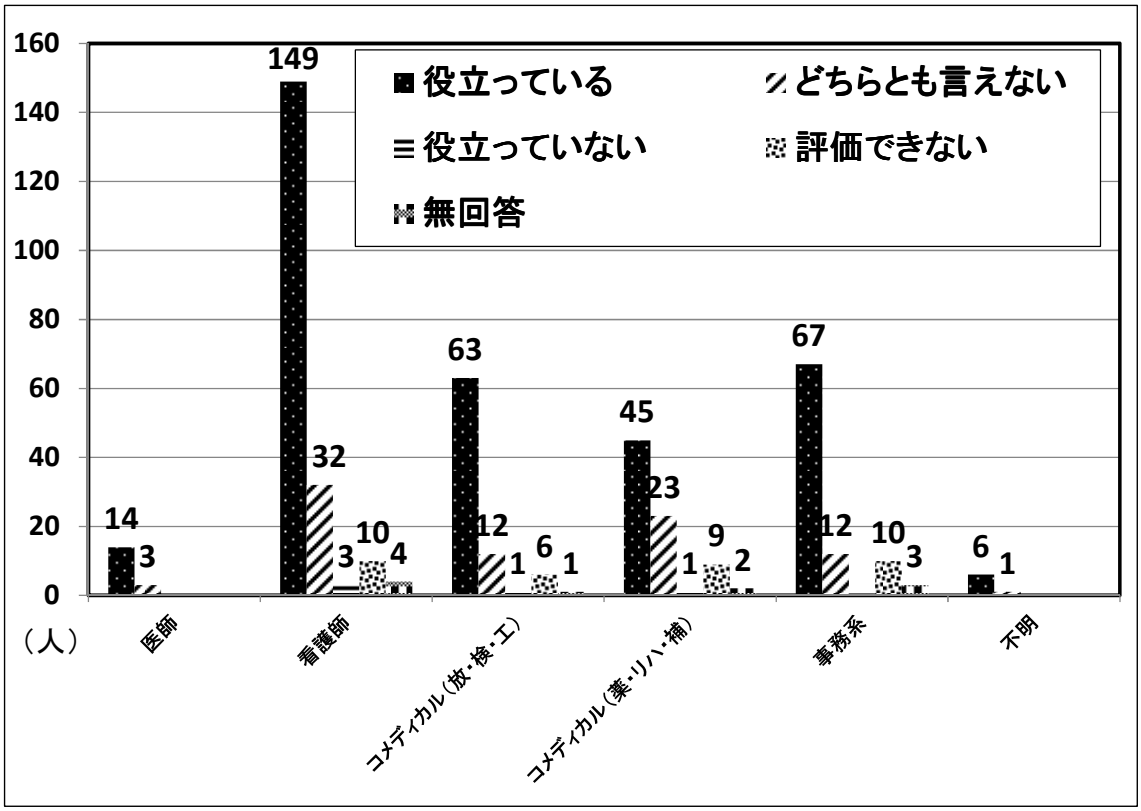


図８

質問：「あなたの病院の救急救命士に対して、どう評価しているか」

救急救命士を雇用している病院での職種別回答者数

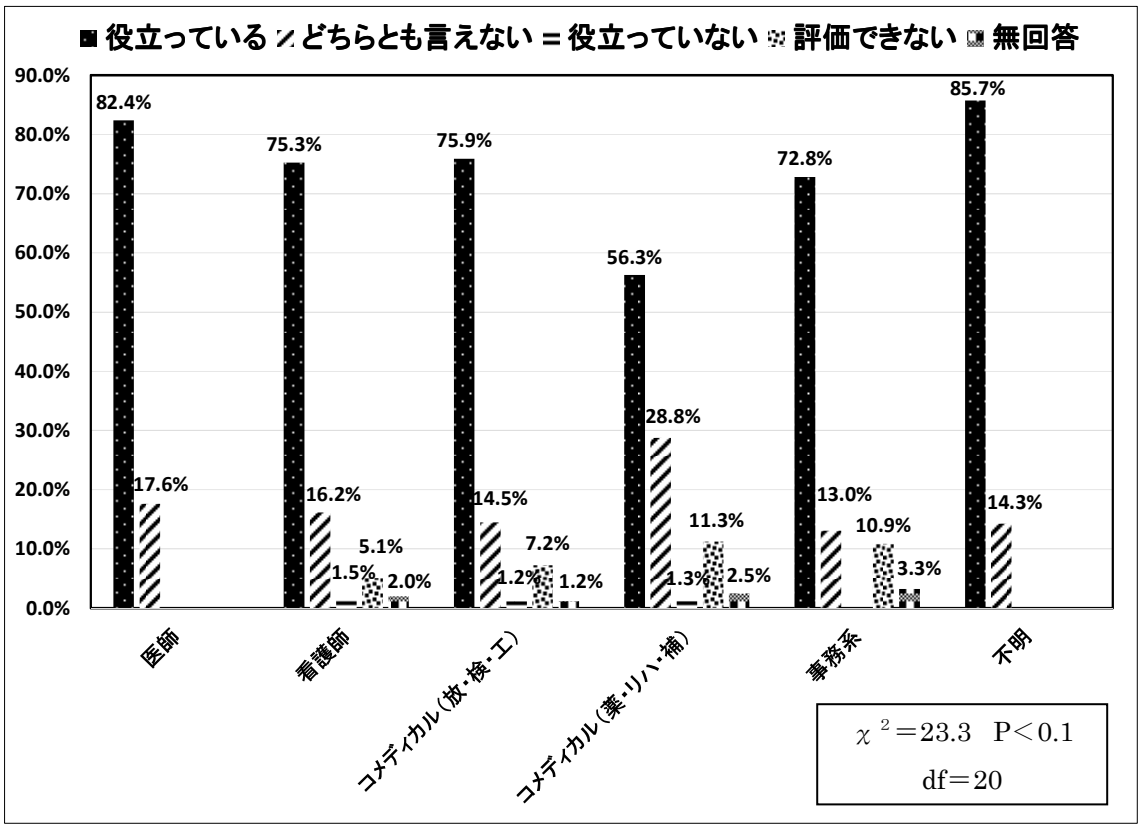


図９

質問：「あなたの病院の救急救命士に対して、どう評価しているか」

救急救命士を雇用している病院での職種別回答割合

表５　質問：「あなたの病院の救急救命士に対して、どう評価しているか」
救急救命士を雇用している病院での理由

| 役立っている理由 |
| --- |
| ・救急車受け入れや転院病院の手配を救急救命士としての知識を活かし実施しているため。 |
| ・看護師不足なので。 |
| ・病棟、ＩＣＵ、救急外来を統括してみないといけないので救急救命士がいることで負担が軽減している。法人所有の救急車があるので、近隣の病院からの転院に役立っている。 |
| ・看護師不足の中救急救命士の業務範囲内ではあるが補助、協力が出来ているので。 |
| ・救急外来の存続にとても重要な役割を果たしている。 |
| ・それぞれがそれぞれの業務に集中できるようになったため。 |
| ・救急患者のトリアージ、ドクターカーの運行、救急患者の転送先探し、病院の方針に貢献している。 |
| ・救急救命士の活動により昨年は過去最多の救急応需が成し得た。 |
| ・連携をとることで患者にあった医療を提供できるためいてほしい存在。 |
| ・急変時の対応 |
| ・看護師不足のマンパワーを補っている。救急隊とのコミュニケーションに一役買っている。 |
| ・医師・看護師が自分の仕事に専念でき、治療の効率も高まると思います。 |
| ・職員との連携が良くとれている。 |
| ・潤滑油の役割（臨床的、事務的に） |
| ・各部署の橋渡しとして機能している。 |
| ・本人たちの意識を考えると望まれて必要とされ、その分野で力を発揮されるべき。民間病院、救急病院、それなりに地位確保されていくべき。 |
| 役立っていない理由 |
| ・救急救命士が活躍できる状況がほとんどないため。 |
| ・救急救命士としての役割が果たされているのか評価しにくい。（現時点での法律で病院勤務となると） |
| ・救急救命士の仕事をあまり理解していない。 |
| ・何に対して役立っているか比較対象がない。誰もいないよりいた方が役立つに決まっているし、救急救命士がいる分だけＮｓがいたらそっちのほうがよほど現場に有用。 |
| ・病院の体制が救急救命士の活動の場に合っていないため、病院の体制に改善が必要で、本来の活動について評価できない。 |
| ・看護助手の業務とほぼ変わらない。 |

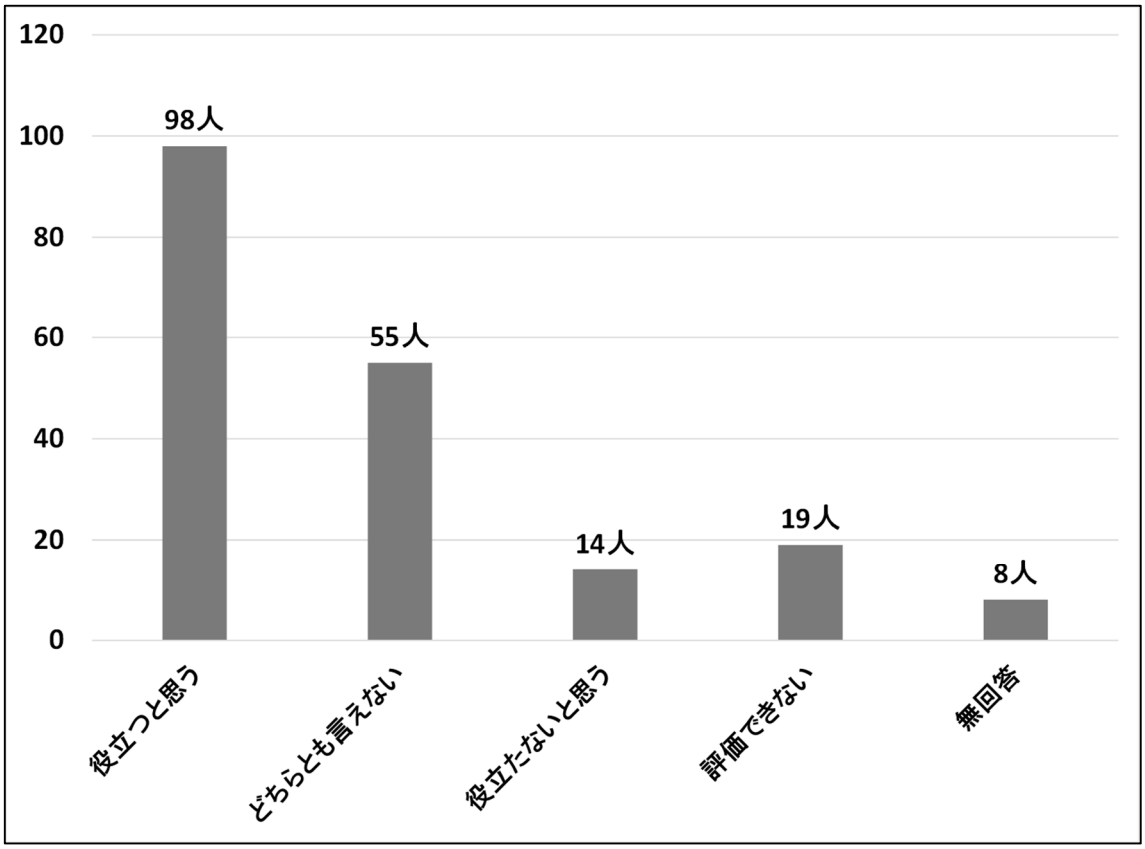


図１０
質問：「もしあなたの病院に救急救命士がいたら、どう評価するか」
救急救命士を雇用していない病院での回答者数

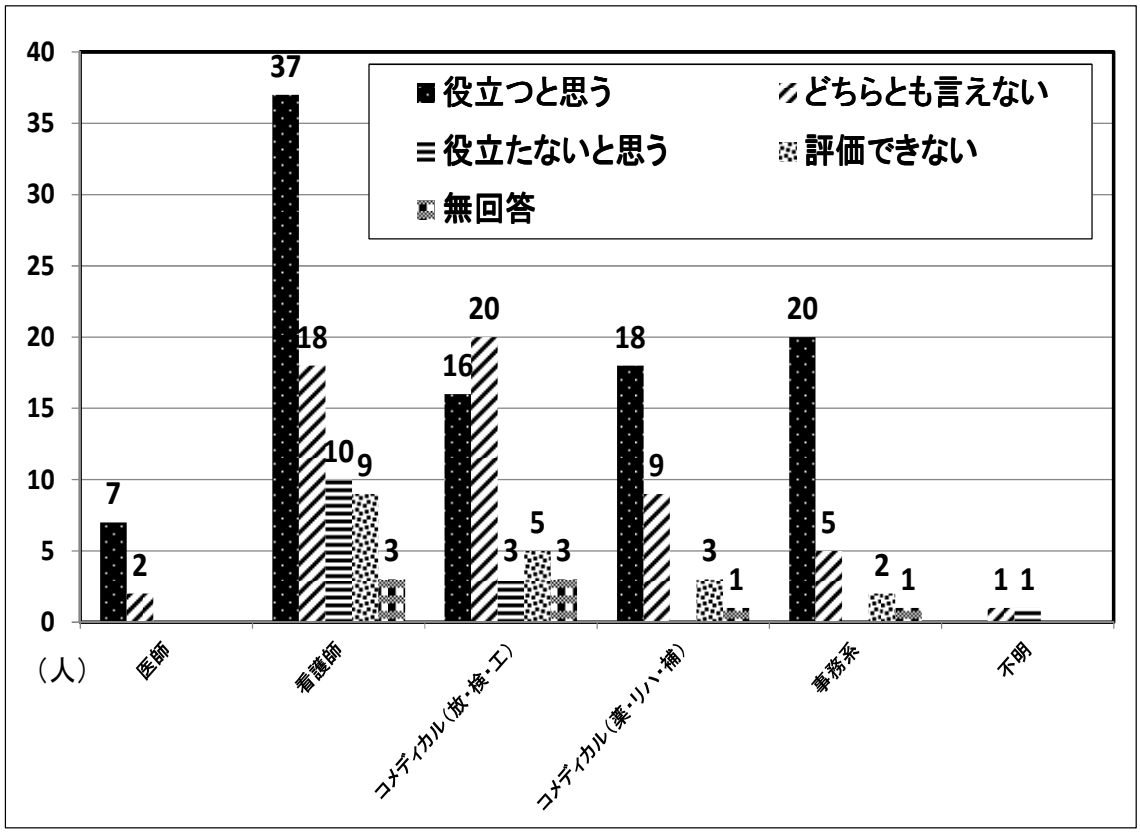


図１１

質問：「もしあなたの病院に救急救命士がいたら、どう評価するか」

救急救命士を雇用していない病院での職種別回答者数

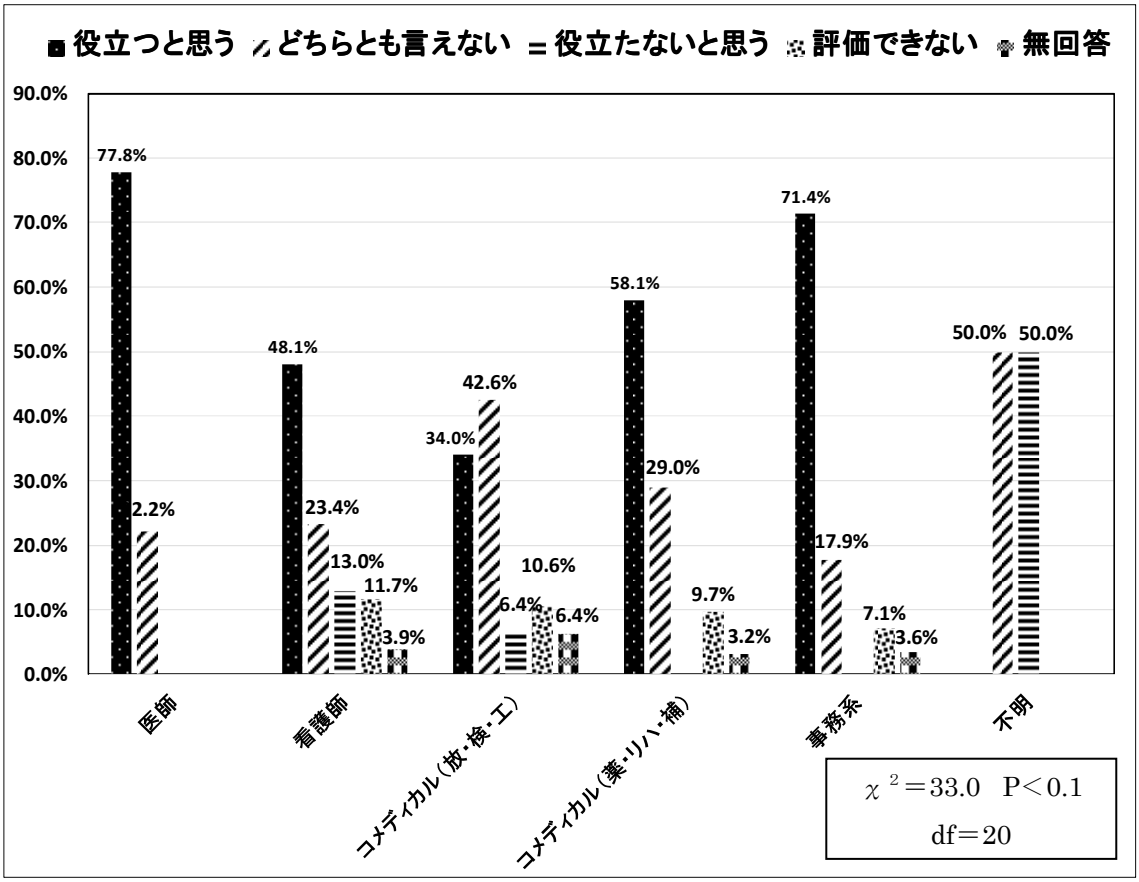


図１２

質問：「もしあなたの病院に救急救命士がいたら、どう評価するか」

救急救命士を雇用していない病院での職種別回答割合

表６　質問：質問：「もしあなたの病院に救急救命士がいたら、どう評価するか」
救急救命士を雇用していない病院での理由

| 救急救命士がいたら役立つと思う理由 |
| --- |
| ・いてくれたら助かると思う。 |
| ・私たちが知らない知識、情報があり、一緒に働けたら役立つと思う。 |
| ・救える命の確率を上げられると思うから。 |
| ・緊急性のある患者の処置を素早く行ってくれると思う。 |
| ・存在することの安心感（職員患者共に） |
| ・看護師や医師と連携をうまくやって、迅速に処置が出来ると思う。 |
| ・救急救命士という幅広い知識を持った人と一緒に働くことでいい刺激が受けられると思う。 |
| ・ＡＥＤ講習や心肺蘇生の講習を院内に広めたい。 |
| ・医師のサポート（急変時）などの面では役立つと思えます。 |
| ・病棟での急変時にかけつけてもらって処置に入ってもらえれば他の看護業務に看護師が回れると思う。 |
| 救急救命士がいても役立たないと思う理由 |
| ・救急救命士が必要な状況が今のところ発生しないと思う。多数の医師も常にいるので。 |
| ・医師、看護師でいいのでは。 |
| ・病院内では救急対応できる看護師、さらに医師が常にいるので急変の対応にも困ったことがありません。 |
| ・看護師との役割が重なる。 |
| ・救急救命士と看護師の出来医療行為にかぶる部分があるように思え、病院内においては必要性を感じない。 |
| ・病院勤務より、救急車に乗務していた方が役立つと思う。 |
| ・当院の診療体制から、役立たないというよりは勿体ないから。 |
| ・救急救命士を理解できていないから。 |
| ・行える医療行為が少ない。 |

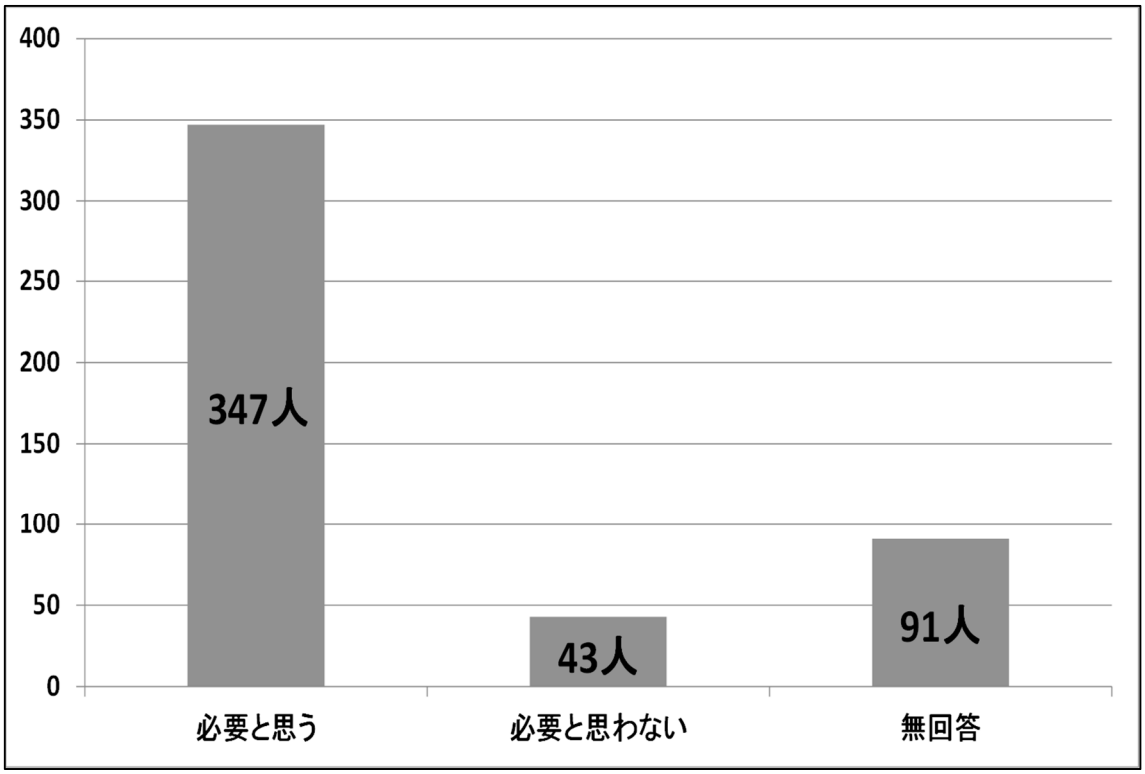


図１３
質問：「あなたの病院に救急救命士は必要と思うか」
救急救命士を雇用している病院での回答者数

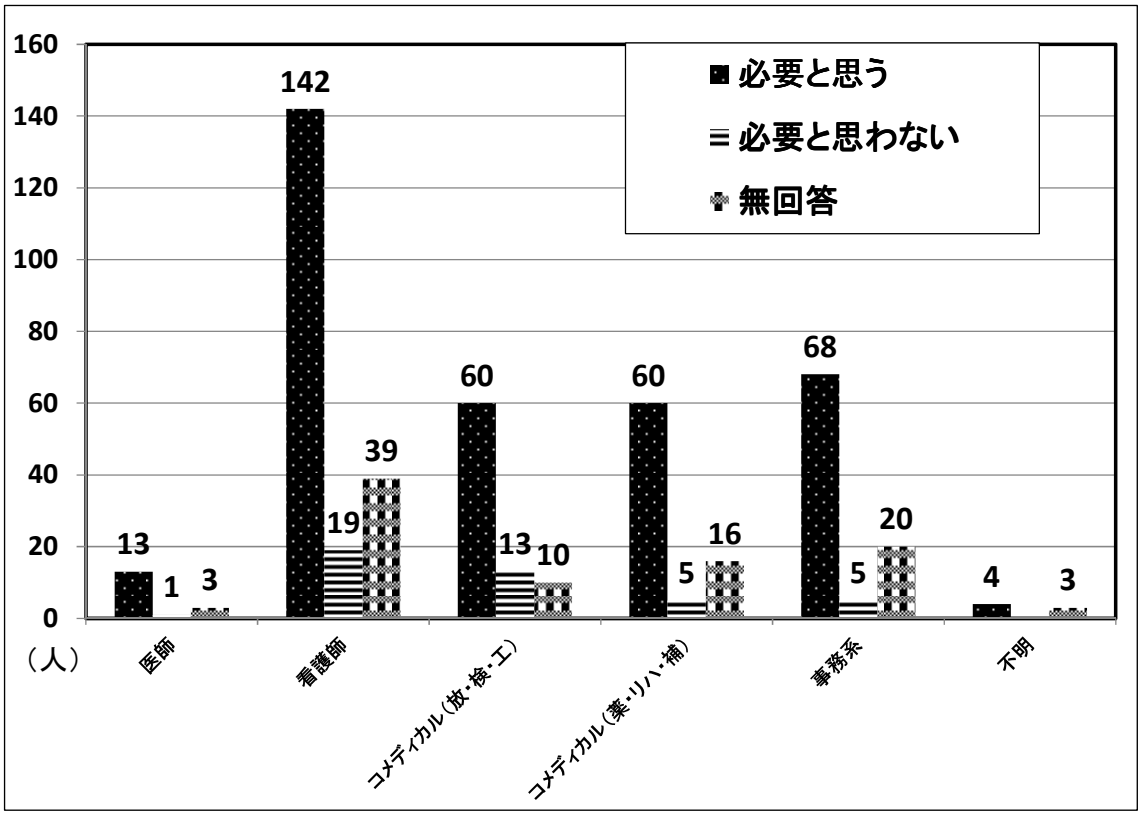


図１４

質問：「あなたの病院に救急救命士は必要と思うか」

救急救命士を雇用している病院での職種別回答者数

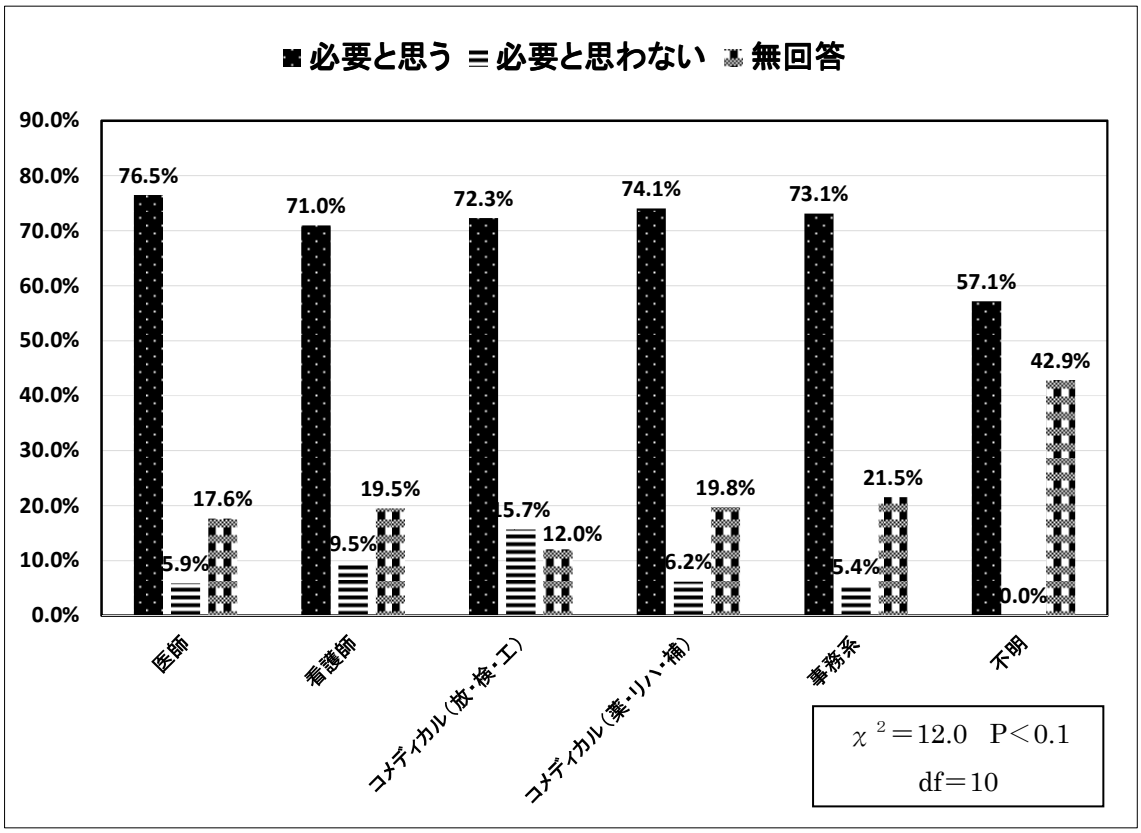


図１５

質問：「あなたの病院に救急救命士は必要と思うか」

救急救命士を雇用している病院での職種別回答割合

表７　質問：質問：「あなたの病院に救急救命士は必要と思うか」
救急救命士を雇用している病院での理由

| 必要と思う理由 |
| --- |
| ・救急隊や他病院とのやり取りが円滑に進むため。 |
| ・特に夜間など限られたスタッフ数で急変や、救急対応をする際に協力して仕事のできる他職種がいると安心。 |
| ・各勤務帯で各病棟（部署）に一人ずつはいてほしい。看護師としては助かる。 |
| ・患者様が急変した時に適切な対処ができるから。 |
| ・二次救急でも重症患者や急変する患者も多いのでトリアージや患者の対応も看護師以外で知識のある救急救命士が役に立っていると思います。 |
| ・看護師、看護助手の不足を救急救命士で補っているため。 |
| ・何ができるか、できないか、やっていいのか、やってはいけないのかはっきりすればマンパワーとして人員不足を解消できる。 |
| ・ＥＲに毎日（夜間も含め）一人は非地用だと思う。事務→看護師より事務→救急救命士→看護師とする方が物事がスムーズに進むと思われる。 |
| ・転送時の業務、ホットラインの対応、ＣＰＡ時の対応など他業務の中でだいぶ役立っているので。 |
| ・看護師不足でマンパワーが必要。 |
| ・救急外来での初期治療。患者の状態が安定するまでの間医師・看護師がより自らの専門性を発揮することができるようにするため。 |
| ・医師・看護師・コメディカル・事務職の潤滑油の役割が可能。 |
| ・看護師が病棟から離れてしまう患者搬送などを急変時の知識、技術を持った救急救命士が行ってくれるのは安心もするし、業務の負担も軽減するので必要です。 |
| 必要と思わない理由 |
| ・救急救命士を必要とする業務が少なく看護師がすべて行える業務であるため。 |
| ・いてくれれば助かることもありますが、必ずいてほしいかと言われればそうでもないと思います。 |
| ・存在位置が明確ではないため。 |
| ・医療行為ができないから。かといって助手業務しかさせてあげられない。救急救命士は病院で何がしたいのか目的がはっきりあれば教育もできる。救急救命士のモチベーションを上げてあげられない。 |
| ・今の制限された業務内容だと仕事の振り方が難しくなるだけだと思う。 |
| ・看護師の中にも救急認定看護師が存在するため、あえて救急救命士を必要とすることもない。 |

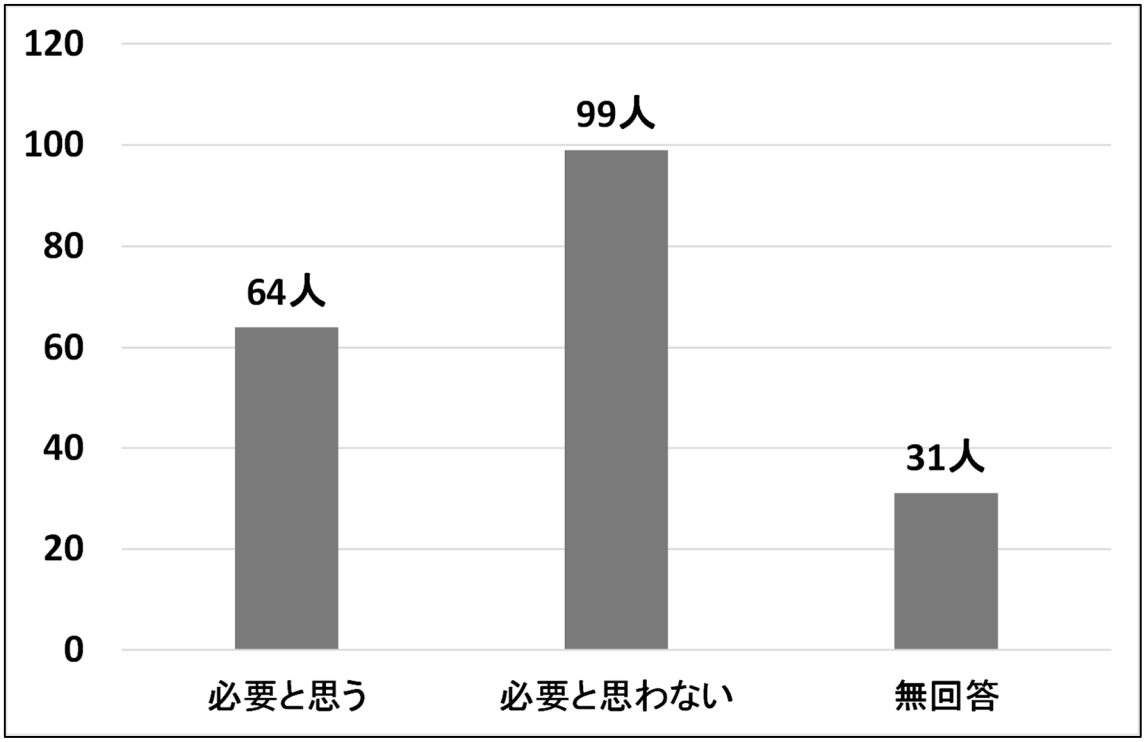


図１６
質問：「あなたの病院に救急救命士は必要と思うか」
救急救命士を雇用していない病院での回答者数

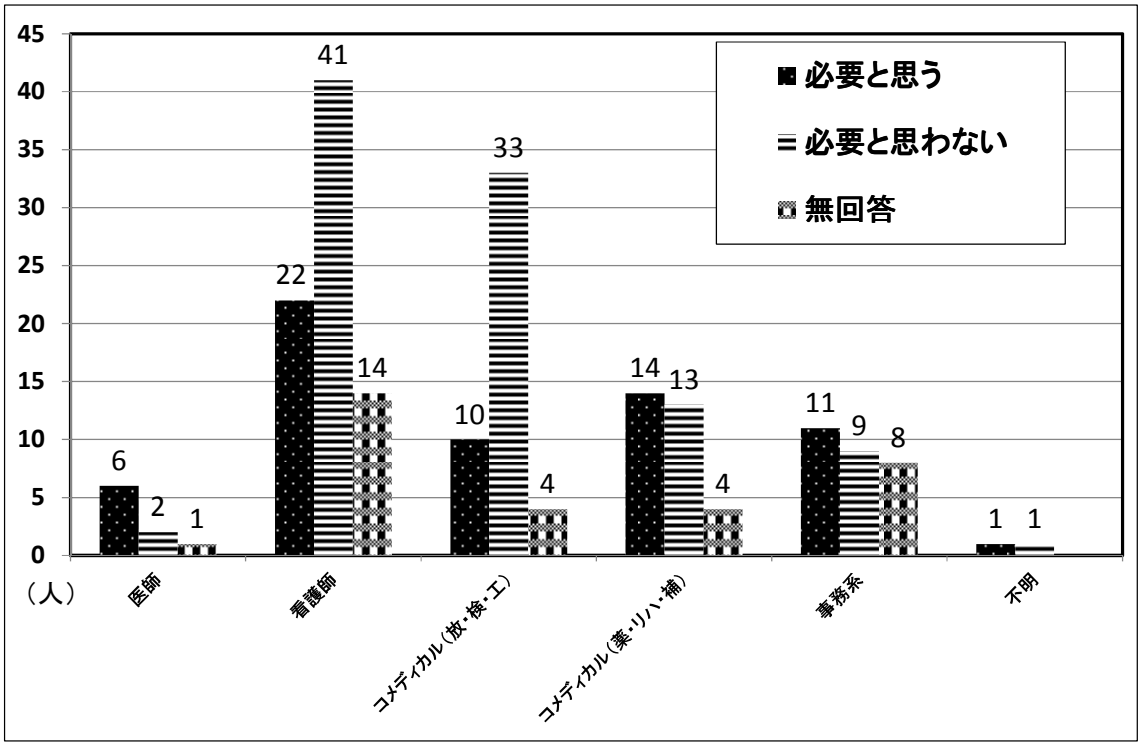


図１７

質問：「あなたの病院に救急救命士は必要と思うか」

救急救命士を雇用していない病院での職種別回答者数

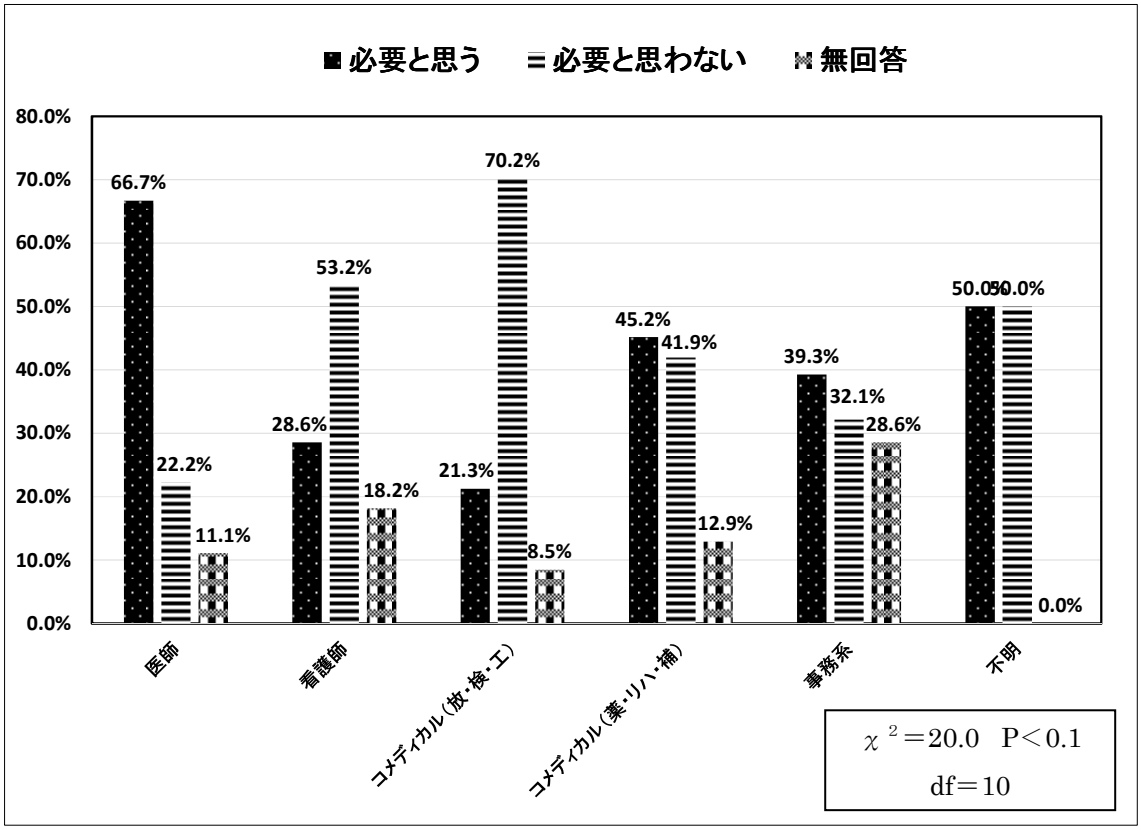


図１８

質問：「あなたの病院に救急救命士は必要と思うか」

救急救命士を雇用していない病院での職種別回答割合

表８　質問：質問：「あなたの病院に救急救命士は必要と思うか」
救急救命士を雇用していない病院での理由

| 必要と思う理由 |
| --- |
| ・看護師業務と重なることが多いが、救急患者の対応や看護補助で役立つと考えられる。 |
| ・看護師が少ない中、救急外来にいてくれるのであれば救急救命士と看護師で組み合わせればいいと思う。 |
| ・救急の対応が迅速となる。 |
| ・具体的なイメージがつかないが救急救命士がいることで救急外来の看護師にとってスムーズな流れができるのであれば一人いるといいと思う。 |
| ・看護師の業務負担軽減 |
| ・他スタッフへの教育にもつながるし、救急時の対応に準備しておける人材があることは心強い。 |
| ・救急業務がレベルアップされる。 |
| ・救急救命士がいたほうがよりよい医療を目指せると思うから。 |
| ・立て続けに救急患者が搬送されてしまうと業務がスムーズに行かないと思う。医師が一人の患者様につきっきりというわけにもいかない状況時等、手助けになるのではないか（できる範囲はきまっていると思うが） |
| ・救急外来の充実のため |
| 必要と思わない理由 |
| ・現状として困った経験がないため医師が同じ役割を果たしていると思われるから。 |
| ・できる業務がわからないので。 |
| ・いてくれるといいが、必ずしも必要とは思わない。救急対応は現状の医師と看護師で十分行える程度の救急外来だと思うから。 |
| ・当院は救急救命士より看護師を増やしてほしいので。 |
| ・急変する患者が少ない。十分な医師がいる。 |
| ・医師、看護師で十分だと思う。 |
| ・医師、看護師が勤務しているため。 |
| ・病院内でのやれる行為が少ないように思える。病院内での救急救命士にしかできないという特化した行為がないように思える。 |
| ・今現在いなくても問題がないため |
| ・いてもらうとうれしいが、必要かというと他の職種で対応できている気がする。 |

表９　質問：「救急救命士に対する満足点」
救急救命士を雇用している病院での評価

| |
|---|
| ・病院の方針に沿って自分たちのできる限りの対応をしてくださっているので、満足です。 |
| ・当院では救急救命士のおかげで救急車の受け入れがスムーズでスタッフからも信頼されている。 |
| ・ＥＲでの患者受け入れや搬送は救急救命士が行ってくれているので当院でのＥＲがしっかりと機能しているのは救急救命士の力だと思います。 |
| ・病棟患者でのＣＰＡ時応援に来て下さる。 |
| ・看護助手にはない医学的知識を持って患者対応ができる。 |
| ・急変時に挿管の介助や心マを行ってくれる。 |
| ・満足しているが、救急救命士本人が今の業務をどうとらえているかだと思います。 |
| ・当院では看護師が採血室などで人手不足になりがちなため救急救命士が電話の取次ぎ一般患者のバイタルチェックなど積極的に行ってくれる。また患者の搬送などにも積極的である。 |
| ・当院の救急救命士は法的に許される範囲で、積極的に業務をおこなってくれます。診療の介助から事務的処理まで。 |
| ・ＥＲと事務部の連携が向上したこと。 |
| ・医師・看護師が集中できるように、そのほかの救急外来業務を行っていることは非常に素晴らしいと感じている。 |
| ・当院の救急救命士は救急車からの電話対応に処置の介助に検査時のトランスになど様々な場面で活躍してくれて大変助かっている。 |
| ・主に救外での業務であり、検査出し、バイタルサイン測定など看護師の人員不足は補えている。 |
| ・救急外来に来院した患者に対しすぐにバイタルサインチェックをし報告してくれる。また入院患者についてアナムネをとってくれる。検査誘導も急変しそうな患者に付き添ってくれる。 |
| ・現状での満足は必要時のマンパワーとしてのみです。 |
| ・救急救命士の方の機敏な動きのおかげで、救急受入れがスムーズにできていると思います。 |
| ・外部から見ているとバイタルチェック・更衣・検査の誘導などを主にやっているようだが、人手が足りない時には、それをやってもらえるだけでも助かると思う。 |
| ・救急救命士と看護師の連携を取りながら業務を行うことで仕事がはかどる。患者様にとっても待ち時間（ＥＲ）がだいぶ変わってくると思う。 |
| ・看護と違った専門的な視点で患者対応をしている。 |

表１０　質問：「救急救命士に対する不満点」
救急救命士を雇用している病院での評価

| |
|---|
| ・仕事が出来る範囲が資格がない人でもできるものばかりで、救急救命士である意味がない。救急救命士が本来できる仕事の範囲までの規制を緩めてほしい。 |
| ・救急救命士としての業務が少ないためあまり活躍出来ていない点。 |
| ・役割またはどこまでの業務が出来るかの位置付けがされていないため、扱い方に困る。 |
| ・資格内の業務としてどこまでがＯＫなのかがはっきりわからない。特に院内では医師、看護師がいるため医療行為に関する部分に何処まで関わるのか。 |
| ・病院として何を行ってもらえるのか何ができないのかはっきりしていなくて使いにくかった。 |
| ・施設内での業務として、様々な規制があり、学んできた知識や技術が十分に発揮されていない様に思われる。また、観察力や問診、病歴聴取等の未熟さやコミュニケーション技術が未熟であり、対患者との距離を感じる。 |
| ・行ったことに対して記録していないため、責任の所在がはっきりしない。院内では、法的にも看護師、准看護師でないために、助手としての扱いとなっている。救急救命士の管理が難しい。 |
| ・業務制限が多く、本領を発揮できていない。 |
| ・法的にできる行為が制限されているため、看護師の雑用のような扱いをされているときがあること。 |
| ・業務内容が曖昧で、無駄な仕事もある。末梢ラインの確保や看護記録がかけると良い。 |
| ・具体的にどんな業務ができるのかがよくわからないので、仕事を頼みたくても頼めない。 |
| ・せっかくの資格が病院内で活かされていない。 |
| ・やれることが限られているので、仕事内容が補助さんと重なる点が気の毒に思う。看護師と補助の間のような立場なので難しいと思います。 |
| ・救急救命士の業務内容（可能な範囲）が明確でないので、どこまでやってもらっていいのか？資格学校での勉強内容や、どこまで知り得ているかがわからないので。 |
| ・院内ではどこまでの業務ができるのか明確にしてほしい。 |
| ・当院では明確な立ち位置、役目が決まっていない。救外、数値処理が主な業務となっている。 |
| ・何ができてなにができないかわからず何も頼めない。看護師が行っていた注射の介助などしてくれるが不慣れで要領を得ないことが多い。 |
| 看護を習っていないため患者管理に制限がある。 |
| ・専門性を発揮できていない印象。 |

表１１

質問：「あなたは救急救命士をどう思っているか、その印象を含めての自由記載」

救急救命士を雇用していない病院での評価

| |
|---|
| ・消防に勤務していて救急車に乗って患者さんに救命医療ができる。 |
| ・院内よりも救急車内での活動との印象。 |
| ・救急車で急病人を運んでくる人達。救急車でこそ活躍の場がある気がする。 |
| ・どんな病院であっても必要な時があると思う。当院でもいてくれれば役立つことは多くないが、あると思う。 |
| ・医師・看護師に集中している医療業務を多業種連携により緩和できる。 |
| ・救急救命について専門的な知識・技術を持っている。 |
| ・院外での活躍の場が多いと思うが、院内ではなかなかないと思う。 |
| ・手を出せる範囲が狭いなと感じることは救急外来勤務している時感じていました。 |
| ・患者急変時の対応に優れている。 |
| ・救急車で出動し、傷病者の状況。状態に合わせて初期治療 |
| ・単なる医師の補佐ではなく、能力を活かした業務を病院側が用意できるかが難しい。一つの業務しか行わないので技術は普及せず、医師と看護師の中間という認識ではあらゆる仕事を押し付けられる。 |
| ・詳しく知らないため知る機会が欲しいと思う。 |
| ・病院外の仕事というイメージがあります。 |
| ・救急車両に乗って初めて資格を活かせる職業という印象。病院にいる印象がない。 |
| ・あまり必要性を感じない。 |
| ・消防士などの経験のある救急救命士は即戦力になりそう。そのような人と学校を出ただけの救急救命士とは差がありそうな気がします。 |
| ・記憶違いでなければ、今まだ救急救命士のできる作業には制限があったと思うので、早く撤廃され、普及したらいいと思う。印象としては消防士さんというか、救急隊の中の人。 |
| ・医療行為に対する制限がある印象。 |
| ・救急車内での業務（現場から医療施設までの業務）に関してはとても重要だと思います。業務内容はわからない。病院内の業務に関してはあまり必要でないように思います。 |
| ・救急の場合の処置などがどこまでできるのか、詳しいことはわからないが、救急の現場では欠かせない存在なんだろうな、という程度。接点がほぼないため、印象が薄い。 |
| ・救急救命士も病院前救護で活躍していると思います。法律変更で医療の現場でも活躍できればもっと救急救命士が病院内で勤務できると思います。 |
| ・活躍の場が少ないと思う。もう少し医療行為が緩和されれば、医療の現場で幅広く活躍されると思います。 |

## 二次救急病院における
## 救急救命士の存在意義についての問題点

①病院内での立場がまだ曖昧であること
②病院内での業務内容や責任の所在が不明確
③現状では救急救命士だから必要とされているのではなく
単純なマンパワーとしてみなされている傾向が多い

↓

現状の二次救急病院では、救急救命士が存在しなくとも
既存の医療従事者で業務が完結できるためこのような問題
が生じていると考えられる

図１９
二次救急病院における救急救命士の存在意義についての問題点

添付資料 1.

病院職員の皆様へ

**「二次救急病院における救急救命士の評価についてのアンケート調査」**

**に関する調査ご協力依頼について**

杏林大学保健学部　救急救命学研究室　助手　久米梢子

杏林大学保健学部　救急救命学研究室　教授　和田貴子

拝啓

初夏の候、皆様におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。さて、突然のことでご迷惑をおかけいたしますが、「二次救急病院における救急救命士の評価についてのアンケート調査」について調査ご協力をお願いしたいと存じます。

近年、一部の救急医療機関では救急救命士を採用しており、このことが救急医療の向上に貢献しているかを検討しております。本調査では、地域の救急医療の要である二次救急病院に勤務している医療系職員や事務職員の方々が、救急救命士に対してどのように評価しているかなどをアンケート調査し、地域救急医療の質の向上を目的に救急救命士が病院で働くことの必要性について検討したいと考えています。

このアンケートにご記入いただいた情報につきましては、回答病院及び回答者様個人を特定するような情報を公表することは一切ありません。また、調査にご協力いただけなくとも、不利益を生じることはございません。

ご多忙のところ誠に恐縮ですが、本調査にご協力頂きますようお願い申し上げます。また、調査にご協力の際には、お手数でありますが、同意書に署名して頂けますようにお願い申し上げます。

敬具

〒192-8508

東京都 八王子市宮下町４７６

杏林大学保健学部救急救命学科　救急救命学研究室

調査者：久米梢子（助手）、和田貴子（教授）

電話　042-691-0011　内線 4220

添付資料 2.

# 同　意　書

杏林大学保健学部

保健学部長　大瀧　純一　教授

私は、「二次救急病院における救急救命士の評価についてのアンケート調査」について、文書により説明を受けました。

このアンケートに回答することに

□同意する

□同意しない

同意日　　平成　　年　　月　　日

同意者氏名

説明者氏名　久米梢子／和田貴子

**返信用封筒に同封して下さい。**

添付資料 3.

# 二次救急病院における救急救命士の評価についてのアンケート調査

空欄には該当事項のご記入、および□にレ点のご記入をお願いいたします。

勤務病院：（　　）病院

勤務年数：（　　）年

性　別：□①　男　性　　□②　女　性

年　齢：（　　）歳

勤務形態：□①常勤　　□②非常勤

職種：□①　医師（診療科：　　）
　　□②　看護師　　□③　薬剤師　　□④　放射線技師
　　□⑤　臨床検査技師　　□⑥　理学療法士　　□⑦　看護補助　□⑧　作業療法士
　　□⑨　他のコメディカル（　　）
　　□⑩　事務職　　□⑪　クラーク　　□⑫　その他（　　）
　　□⑬　救急救命士

主な勤務部署：看護師の方のみ回答して下さい。**1つだけ**お選びください。
　　□①　救急外来　　□②　一般外来　　□③　内視鏡検査室
　　□④　内科系病棟（ＨＣＵ含む）　　□⑤　外科系病棟（ＨＣＵ含む）
　　□⑥　手術室
　　□⑦　その他（　　）

質問１　救急救命士という国家資格を知っていますか。
□①知っている
□②知らなかった

質問２　救急救命士の業務内容を知っていますか。（どのような処置が出来るのかなど）
□①知っている
□②知らない

質問３　あなたの病院に救急救命士は

□①勤務している

**※①を選んだ方は次の質問４から☆マークのついた質問をご回答ください。**

□②この病院には救急救命士は勤務していない

**※②を選んだ方は質問１０へ飛び、以降は❤マークのついた質問をご回答ください。**

☆質問４　あなたは救急救命士がいて良かった、または助かったと思ったことはありますか。**１つだけ**お選びください。

□①非常にそう思う

□②どちらかというと、そう思う

□③どちらとも言えない

□④どちらかというと、そう思わない

□⑤全くそう思わない

理由：

☆質問５　あなたの病院の救急救命士に対して、あなたはどう評価していますか。**１つだけ**お選びください。

□①非常に役立っている

□②どちらかというと、役立っている

□③役立っているかいないか、どちらとも言えない

□④どちらかというと、役立っていない

□⑤非常に役立っていない

□⑥評価できない

理由：

☆質問６　救急救命士が最も役立つ業務や部署について、あなたのお考えをご記入ください。

役立つ業務、部署：(　　)

理由：

☆質問７　救急救命士が最も**役立たない**業務や部署について、あなたのお考えをご記入ください。

役立たない業務、部署：（　　）

理由：

☆質問８　救急救命士に行ってほしい業務があれば、ご記入ください。

□①一般患者からの電話対応　□②救急車からの電話対応
□③救急外来でのトリアージ　□④問診・病歴聴取
□⑤バイタルサインチェック　□⑥看護記録の記載
□⑦更衣の介助　□⑧検査誘導
□⑨点滴ルート作成　□⑩静脈路確保
□⑪採血　□⑫検体の取り扱い
□⑬薬の取り扱い（具体的な薬剤名：　　）
□⑭切創・骨折等の処置の介助　□⑮ＣＰＡ時の気道確保・気管挿管
□⑯ＣＰＡ時の心臓マッサージ　□⑰ＣＰＡ時の除細動
□⑱転院搬送の付き添い　□⑲救急外来の清掃
□⑳ドクターカーや救急車の整備・清掃
□㉑そのほか（　　）□㉒とくになし

☆質問９　一緒に働いている救急救命士に対する満足点と不満点を自由にご記入ください。

満足点：

不満点：

**※質問３で①とお答えいただいた方（☆マーク）は、質問１６～質問１９もご回答ください**

❤質問１０あなたは、これまでに救急救命士がいたら良かった、または助かっていたと思ったことはありますか。**1 つだけ**お選びください。

□①非常にそう思った
□②どちらかというと、そう思った
□③どちらとも言えない
□④どちらかというと、そう思わなかった
□⑤全くそう思わなかった

理由：

❤質問１１　もし、あなたの病院に救急救命士が勤務していたら、あなたはどう評価しますか。**1 つだけ**お選びください。

□①非常に役立つと思う
□②どちらかというと、役立つと思う
□③役立っているかいないか、どちらとも言えない
□④どちらかというと、役立たないと思う
□⑤非常に役立たないと思う
□⑥評価できない

理由：

❤質問１２　もしあなたの病院に救急救命士が採用される場合、救急救命士に行ってほしい業務があればご記入ください。

□①一般患者からの電話対応　□②救急車からの電話対応
□③救急外来でのトリアージ　□④問診・病歴聴取
□⑤バイタルサインチェック　□⑥看護記録の記載
□⑦更衣の介助　□⑧検査誘導
□⑨点滴ルート作成　□⑩静脈路確保
□⑪採血　□⑫検体の取り扱い
□⑬薬の取り扱い（具体的な薬剤名：　）
□⑭切創・骨折等の処置の介助　□⑮ＣＰＡ時の気道確保・気管挿管
□⑯ＣＰＡ時の心臓マッサージ　□⑰ＣＰＡ時の除細動
□⑱転院搬送の付き添い　□⑲救急外来の清掃
□⑳ドクターカーや救急車の整備・清掃
□㉑そのほか（　）□㉒とくになし

❤質問１３　もしあなたの病院に救急救命士が勤務していた場合、救急救命士が最も役立つ業務や部署について、あなたのお考えをご記入ください。
役立つと思う業務、部署：(　　)
理由：

❤質問１４　もしあなたの病院に救急救命士が勤務していた場合、救急救命士が最も**役立たない**業務や部署について、あなたのお考えをご記入ください。
役立たないと思う業務、部署：(　　)
理由：

❤質問１５　あなたは救急救命士をどう思っているか、その印象も含めて自由にご記入ください。

**※質問３で②とお答えいただいた方（❤マーク）は、引き続き質問１６～質問１９もご回答ください。**

☆❤質問１６　あなたの病院に救急救命士は必要と思いますか。その理由もご記入ください。必要と思う方は総計人数だけでなく、必要と思う部署の人数もご記入ください。
□①必要と思う　　：総計（　　）人
□②必要と思わない
理由：

☆❤質問１７　救急救命士は、法律の制限のために、病院内で限られた医療行為しかできないことを知っていますか。
□①知っている
□②知らなかった

添付資料 3.

☆❤質問１８　救急救命士の法律の制限が緩和され、多くの医療行為（静脈路確保、血糖測定、特定の薬剤の取り扱いなど）の実施が可能になるとしたら、それに賛成しますか。それぞれについての理由もご記入下さい。

□①賛成

□②反対

理由：

☆❤質問１９　病院内で働く救急救命士に求める経験は次のうちどれですか。

□①消防での経験

□②病院での経験

□③両方いらない

□④両方あった方がいい

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

**ご提出の際は、同封した返信用封筒に同意書とこのアンケート用紙を入れてご投函ください。**